

令和5年度 狭山市立笹井小学校 学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 【評価の目安】

- A : よくできている。 (90%以上)
- B : 概ねできている。 (85%以上)
- C : あまりできていない。 (70%以上)
- D : できていない。 (70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・校長の経営方針のもと、「チーム笹井」として学校、学年、学級が共通理解をもち足並みを揃えて学校運営が進められた。 ・教育心理検査(Q-Uテスト)の学級生活満足度が、(平均64.8%全国42.8%)である。また、年2回実施しているが、各クラスの満足度伸び率は、7.8%アップであり、年間を通して、どのクラスも楽しい学級づくりにも努めることができた。	・学校教育目標を中心に、目標が明確である。 ・校内に活気があり、児童が楽しく生活している。 ・教職員のチームワークが素晴らしい。フォロー合っている。 ・児童が一生懸命掃除に取り組み、校内がきれいに保たれている。
	2	児童生徒は、学校生活が楽しいと感じている。	A	・点検もよくされ、安全に管理されている。 ・夏季の除草作業等、よく協力合っている。 ・ボランティアで教室に入ることがあるが、先生方様々な協力を感じる。	
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	・学校評価保護者アンケート回答率69.3% 初めてQRコードのみの回答。周知協力で課題。 ・職員は相互に尊敬しあう風潮があり、雰囲気も良く仕事への意欲に繋がっている。	
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B	・教職員も児童と共に清掃活動を行い、見届けができています。無言清掃を徹底。丁寧ながらも学校の規模に対する分担人数がやや課題。	
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	A	・施設設備の瑕疵による事故は、一度もなかった。校庭整備では、特に芝生の管理について、ボランティアと連携し計画的に進めることができた。	
学習	6	教師は、児童生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	A	・すべての学級で落ち着いた雰囲気での授業が実施されている。ICTの活用や具体物を使った授業を通して、興味関心を持たせ、楽しみながら授業を進めた。保護者アンケート(わかりやすい授業をしている肯定的評価約90%)	・分かりやすい授業のための工夫がされている。 ・児童が落ち着いた学習をしている(保護者アンケートからも感じられる)。 ・基礎基本事項の習得のために、児童がよく努力している、 ・家庭学習の取組み方について学校、保護者、地域で改めて考えてみてよいのではないかと。 ・授業において「ねらい」「思考過程」「まとめ」がはっきりしていて分かりやすい。
	7	児童生徒は、落ち着いた学習に取り組んでいる。	A	・各種の学力調査を分析し、指導改善に努めている。 ・学校課題研究「文章を正確に読み取り内容を深く理解し考えを伝えることができる児童の育成」に取り組み読解力の向上を図っている。	・読み聞かせでは、どの学年も集中して聞いてくれる。
	8	児童生徒は、基礎的基本的な学力を身に付けている。	A	・家庭学習時間を、低学年は30分、中学年は40分、高学年は60分をめやすと考えて進めている。60分以上が昨年度に続き減少している。また、10分以下という学年もあり、より具体的な学習例を示すなど改善が必要である。	
	9	児童生徒は、家庭学習の習慣を身に付けている。	B	・高学年の英語、中・低学年での英語活動は、英語専科教員、英語支援員、そしてALTが中心となって、担任と連絡を取り合い毎回工夫をこらした授業をしている。児童も楽しく英語を声に出して取り組んでいる。(英語意識調査より【英語が好き】88.8%、【英語の学習が好き】91.2%)	
	10	児童生徒は、英語活動をとおして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	B		
規律ある態度	11	児童生徒は、進んであいさつをしている。	B	・朝の登校のあいさつについては、できる班とできない班で二極化している。学校に来れば挨拶ができる。(県学調アンケート・4.5.6年平均あいさつ81.6% 全国76.4%)	・学校訪問時、児童から積極的にあいさつされる。 ・言葉遣いがきになることがある。
	12	児童生徒は、場に応じた言葉遣いができている。	B	・児童の丁寧な言葉遣いの意識は、(県学調アンケート4.5.6年平均86.5%)であり、埼玉県達成率85.0%を超えることができた。さらに、人権感覚を意識した優しく思いやりのある言葉遣いを徹底していききたい。	・時間を気にかけながら行動する児童の姿が見られる。 ・児童同士、声を掛け合って決まりを守ろうとしている姿も見られる。先生方も率先して守ろうとする姿を見ている。 ・通学班において、班長がよく挨拶をする姿も元気に挨拶をする傾向がみられる。また、その日の気分や体調等の原因で元気がない場合も考えらるので、無理強いせず見守りたい。
	13	児童生徒は、時間を守って生活している。	A	・「授業開始時刻を守るの意識」94.3% 「掃除、美化活動での意識」90%	
	14	児童生徒は、きまりを守って生活している。	A	・教師は清掃活動等、自ら手本となる規範意識を高めた指導を行っている。	
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	A		
健康・体力	16	学校は、児童生徒の体力を高めている。	A	・新体力テストの総合評価A+B+C 県の割合男子71.6% 女子80.0% 本校男子85.7% 女子89.3%	・体力を使う行事もすばらしく、児童は意欲的に取り組んでいる。 ・休み時間に元気に走り回る児童を見ると、体力の向上への取組みを感じる。
	17	児童生徒は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A	・運動の制限も緩和されてきた。朝マラソンや体育授業の中でサーキットトレーニング、体育朝会、冬季の縄跳び等、授業内外での取り組みを工夫し年間を通じて行ってきた。	・養護教諭を中心に、保険の学習に取り組み健康に対して意識が高まっている。 ・放課後、校庭で遊ぶ児童が少ないように感じる。
	18	児童生徒は、健康を意識した生活をしている。	B	・保健学習「生き生きタイム」「健康な生活」等への児童の関心が高まりつつある。 ・家庭と連携して医療勧告の治療率を上げていく。	
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	・PTAのおかげで地域の協力が大変多く、良好な関係が保たれている。11月土曜日の授業公開日午後のPTA/バザーではCSの協力で各種体験教室の実施できた。より充実した活動となるよう努めたい。 ・どの教職員も保護者等と連絡を密に取り組み、連携し、保護者の信頼を得ている。 ・今後も学校公開日や参観日、HPやブログ(今年度開設)学校だより、スクリーンを通して「開かれた学校」づくりを目指す。	・地域との連携をとってもよく図っている。 ・学校からの情報発信が積極的である(校長先生を中心に、いろいろな場で協力依頼や情報提供をしてくれる)。 ・スクールの活用で学校の様子がよく分かる。 ・学校・保護者・地域が顔を合わせる機会を多く持ちたい。 ・11月の笹井小まつりでは、笹井の豊年足踊りを披露させていただき、児童に地域の伝統文化について興味をもってもらえる機会となった。 ・地域の年配者も気軽に参加できる行事があるとよい。そのためにはコミュニティスクールが中心となり協議を重ね、学校と家庭、地域が一体となれる方向性を築いていきたい。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A	・コミュニティスクール(学校運営協議会)を軸にした笹井地域の良さや教育資源を生かす開かれた学校づくりもより推進できた。(マナー活動・安全指導・DX/ICT支援・平	